

2 研究の実際 > (2) 「強み」に関する活動プログラム

ク 検証結果<高等学校> A高等学校 対象者数25名(うち、回答者数25名)

【検証の視点 I】「あなたのおよとこ SAGA シート (自己肯定感チェックシート)」

生徒がもつ「強み」に着目した交流活動が自己肯定感の高まりにつながったか。

【検証の視点 I - A : 「自分自身に関する自己肯定感」に関する項目】

【検証の視点 I - A - (a) : 「自尊感情」に関する項目】

【検証の視点 I - A - (b) : 「自己主張・自己決定」に関する項目】

キ 検証内容と検証方法 について

↑こちらをクリックすると、検証内容と検証方法を見ることができます。

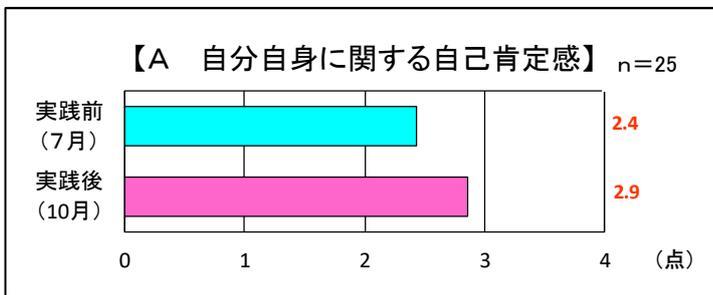


図 1 生徒の「自分自身に関する自己肯定感」に関する意識の変化 (全体)

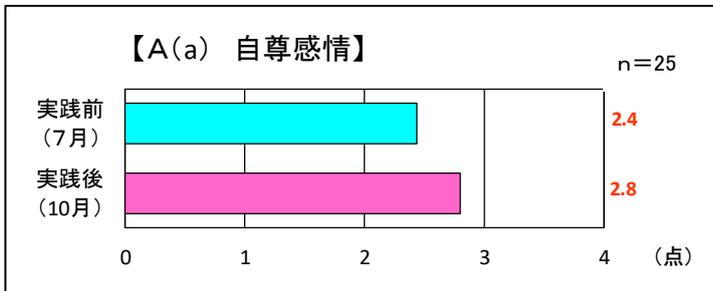


図 2 生徒の「自尊感情」に関する意識の変化 (下位尺度)

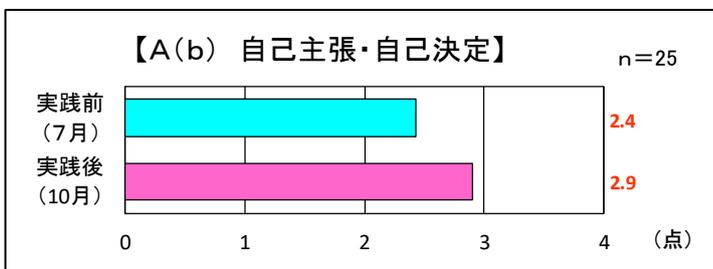


図 3 生徒の「自己主張・自己決定」に関する意識の変化 (下位尺度)

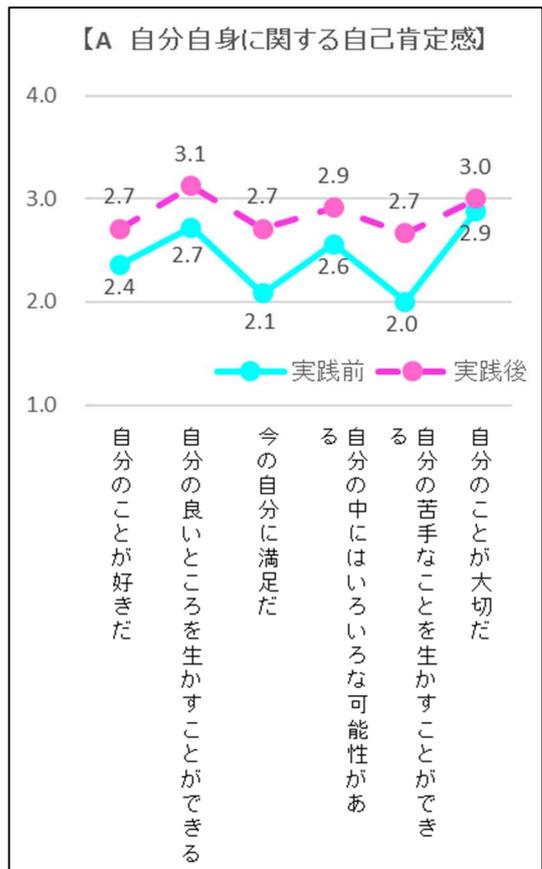


図 4 生徒の「自分自身に関する自己肯定感」に関する意識の変化 (項目別)

○授業実践の前後で、全体では数値が0.5ポイント、下位尺度では「自尊感情」で0.4ポイント、「自己主張・自己決定」で0.5ポイント上がりました（前頁図1～図3）。項目別では、特に、「自分の苦手なことを生かすことができる」で0.7、「今の自分に満足だ」で0.6ポイント上がりました（前頁図4）。また、生徒の振り返りシート等には、「今まで自分には『強み』がないと思っていた。でも、今回、友達に『強み』を見つけてもらうことができて自信になった」「3時間の授業で、自分の『強み』や友達の『強み』など様々なことを知ることができて、とても楽しかった。誰かに認められていると、嬉しく感じるし、もっと伸ばしたいと思った」「自分の『強み』を人に教えてもらいながら、同時に、人の『強み』を考えることで、自分にもっと必要なことが分かったので、これからそこを良くしていきたいと思った」等の記述が見られました。これらのことから、生徒がもつ「強み」に着目した交流活動を通して、生徒が「強み」への理解を深めながら自分の「強み」を知ったことにより、「自分自身に関する自己肯定感」を高めることができたと考えます。

【検証の視点 I-B：「友達との関係を通した自己肯定感」に関する項目】

【検証の視点 I-B-(a)：「自尊感情」に関する項目】

【検証の視点 I-B-(b)：「自己主張・自己決定」に関する項目】

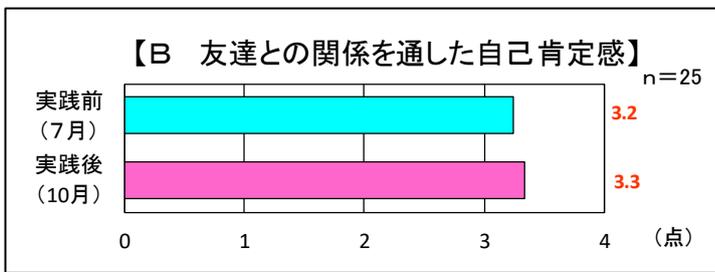


図5 生徒の「友達との関係を通した自己肯定感」に関する意識の変化（全体）

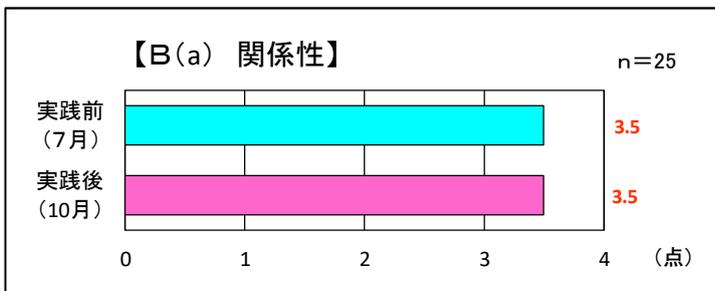


図6 生徒の「関係性」に関する意識との変化（下位尺度）

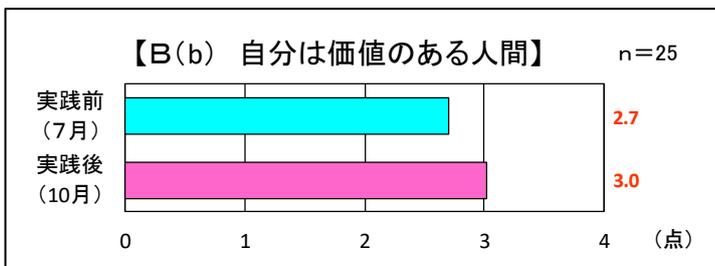


図7 生徒の「自分は価値のある人間」に関する意識の変化（下位尺度）

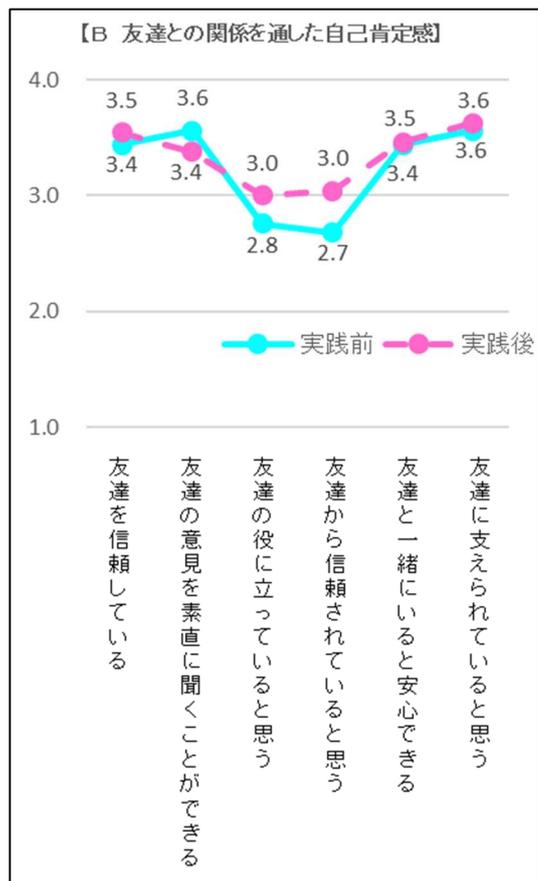


図8 生徒の「友達との関係を通した自己肯定感」に関する意識の変化（項目別）

○授業実践の前後で、全体では数値が0.1ポイント上がりました（前頁図5）。下位尺度では、「関係性」で変化はなく、「自分は価値のある人間」で0.3ポイント上がりました（前頁図6、図7）。項目別では、特に、「友達から信頼されていると思う」で0.3ポイント、「友達の役に立っていると思う」で0.2ポイント上がりました（前頁図8）。また、生徒の振り返りシート等には、「自分が友達からこんなふうに使われていたということが分かって安心した」「友達のことを考えることができた。今まで思っていたことと違う考え方で友達と接することができて良かった」という記述が多く見られました。これらのことから、生徒がもつ「強み」に着目した交流活動を通して、生徒が互いに「強み」を伝え合うことは、自己評価が厳しかったり他者からの評価を気にしたりする高校生にとって、「友達との関係を通じた自己肯定感」を高めるために有効であると考えられます。

◎以上のことから、授業実践前では、友達との「関係性」が高く、それ以外の自分自身に関する項目は低い傾向にありました。その理由として、学級の中で、特定の友達と良好な関係を築いてはいるものの、他者からの評価を気にして不安になったり自分への自信のなさを感じたりしていることが考えられます。実践後には、低かった自分自身に関する項目は上がり、元々高かった友達との「関係性」は数値の変化が見られませんでした。生徒の記述等から、友達から「強み」を伝えられたことにより、安心したり自信をもったりしたことが考えられます。また、友達からの承認に喜びを感じたことにより、更なる自己成長を目指す意欲につながったことも分かりました。さらに、友達の「強み」を見つけて伝え、それが友達に受け入れられたことにより、友達の役に立つという自分の価値を見いだすことにもつながったと考えます。これらのことから、生徒がもつ「強み」に着目した交流活動が自己肯定感の高まりにつながったと考えます。

【検証の視点Ⅱ】「がばいシート」

生徒がもつ「強み」に着目した交流活動が互いに自他のよさを認め合うことのできる人間関係を築くことにつながったか。

【検証の視点Ⅱ－A：学級の雰囲気】

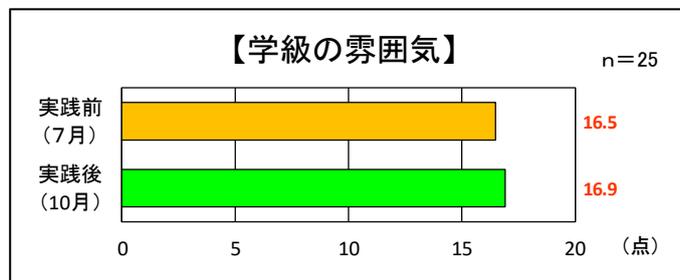


図 9 生徒の「学級の雰囲気」に関する意識と行動の変化 (全体)

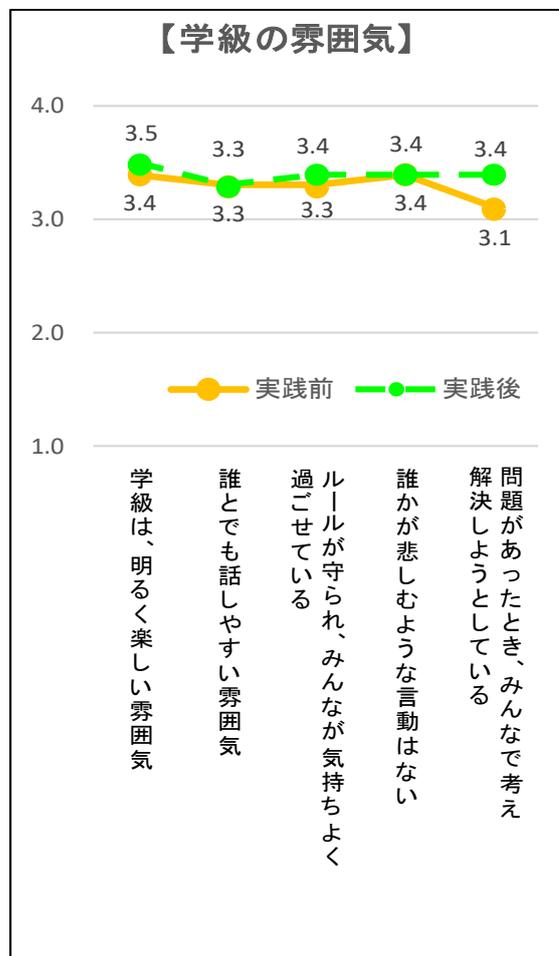


図 10 生徒の「学級の雰囲気」に関する意識と行動の変化 (項目別)

○授業実践の前後で、全体では数値が 0.4 ポイント上がりました (図 9)。項目別では、特に、「問題があったとき、みんなで考え解決しようとしている」で 0.3 ポイント上がりました (図 10)。また、生徒の振り返りシート等には、「人それぞれ、たくさん良いところや悪いところがあって、そのことについて知ることができたので、今後、友達や周りの人への対応も変えられたらいいと思った」「あまり話したことがない人と同じグループになって少し不安だったところもあったが、活動をしていく中で、自分にとっても相手にとってもプラスで、マイナスなことは誰にもなかったと感じた」等の記述が見られました。これらのことから、生徒がもつ「強み」に着目した交流活動を通して、生徒が互いに自他の「強み」を伝え合ったことにより、「学級の雰囲気」が良くなったと感じられるようになったと考えます。

【検証の視点Ⅱ-B：友達との関係】

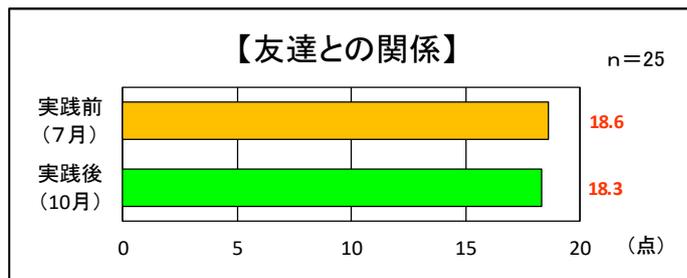


図 11 生徒の「友達との関係」に関する意識と行動の変化（全体）

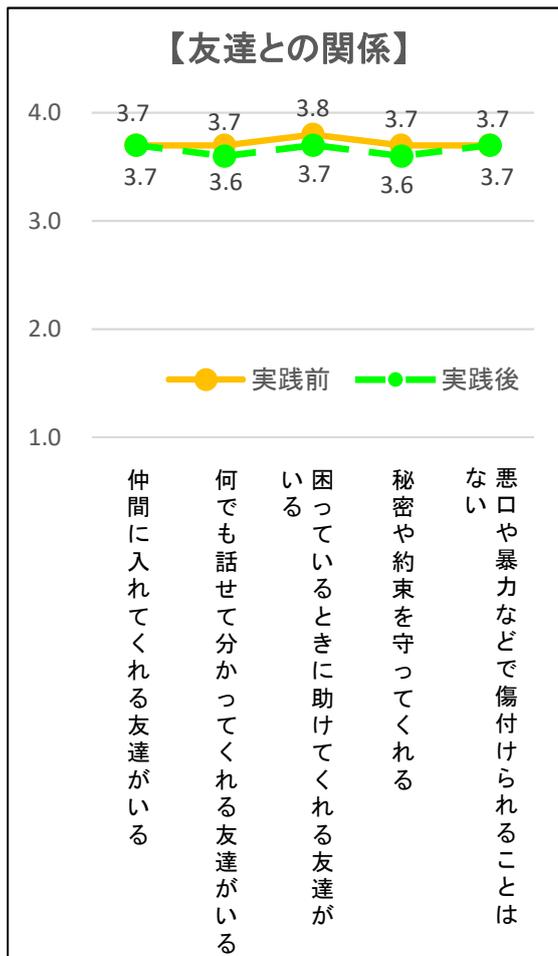


図 12 生徒の「友達との関係」に関する意識と行動の変化（項目別）

○授業実践の前後で、全体では数値が 0.3 ポイント下がりました（図 11）。項目別では、数値に大きな変化は見られませんでした（図 12）。しかし、生徒のワークシート等には、「あまり話したことがない友達の意外な一面を知ることができて良かった」「友達の『強み』を見付けていく中で、見習いたい、まねしたいというところを見付けることができたので、とても良い学習になった」という記述が複数見られました。これらのことから、数値に大きな変化は見られなかったものの、元々数値が高かったことも踏まえると、生徒がもつ「強み」に着目した交流活動を通して、生徒が互いに自他の「強み」を伝え合ったことにより、今後、学級における「友達との関係」が良くなっていくことが期待できると考えます。

◎以上のことから、授業実践前では、「学級の雰囲気」が低く、「友達との関係」が高い傾向にありました。その理由として、学級の中で、特定の友達と良好な関係を築いてはいるものの、学級全体の良好な人間関係まで広がっていないことが考えられます。実践後には、低かった「学級の雰囲気」が上がり、元々高かった「友達との関係」は数値の変化が見られませんでした。生徒の記述等から、初めは、あまり話したり関わったりしたことがなかった友達とのグループ活動に不安やためらいを感じていたことが考えられます。しかし、学習が進むにつれて、友達の「強み」を知ったことにより、友達の「強み」を参考にしたり、関わり方を変えたりしたいという意欲をもつことにつながっ

たことが分かりました。また、今後、多様な他者と関わっていくことにおいて、この学習が有意義なものであったと感じたことも分かりました。これらのことから、今後、生徒がもつ「強み」に着目した交流活動を継続的に繰り返し行うことにより、生徒が互いに自他のよさを認め合うことのできる人間関係を築くことにつながると考えます。